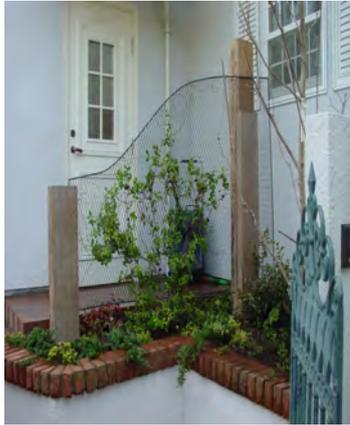


狭小ならばこそ 生きる！

緑のフェンスや柵で木陰を・・・



この頃の建て売りの住宅を見ると、モルタルの駐車場がほとんどで、植栽域が極めて少ない。また庭は有るには有るのだが、樹木を植えるスペースなど、とても・・・。

それでも緑も欲しいし、夏を思うと、木陰だって、風の揺らぎなどの、風情ある、自然を少しでも感じたい。

そんな声を近頃、多く耳にする様になって来た。

これも、コロナの所



(有)林庭園設計事務所
〒193-0823 東京都八王子市横川町 991-6
Tel:042-622-8840

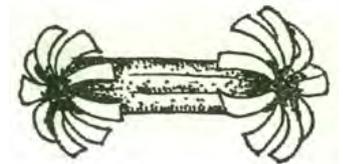
再刊 VOL.1



なのででしょうか？
そこで今回は、メッシュフェンスの実例と柵のアイデアを提案致します。

本例は、ティカカズラの写真ですが、クレマチスや、トケイソウなどの季節の異なる、つる性の植物で四季を愉むもよし、柵には、ぶどうなどで木陰を、秋には嬉しい実りを・・・。

なにせ、ローメンテナンスが良い。



タンポポの花茎を用いて鼓をつくる子供の遊び



冬号であるが、今回は春の花代表、タンポポの話、漢字で書くと蒲公英。「万葉集」や「枕草子」にも見当たらないそうであるが、うやら江戸時代になってからの名であるとのこと。玩具のない頃は、もっぱら野草が子供の遊具。

子供の付けた名前は言えて妙で憶え易い、そこえいくと学者の付けた名は現象の羅列で、面白くない。

云わく、「桃色昼咲き月見草」など、そこいくとキツネノカミソリやエノコノ草などは、ネコジャラシ等々遊びからの銘々は、含蓄に満ちている。

タンポポも古名はツヅミグサのことで右図の如く、茎の両端を細かく裂いて、水に付けると反りかえり放射状に広がって、ちょうど鼓の形になると、民俗学者で有名な柳田国男の著作にある。

遊びの中で憶えた草は、いつまでも忘れない。この花の名もポンポンと何やら音が聴えそうである。



二年近くにわたる、感染症のパンデミックに、いわゆるお家(うち) 時間が増え、改めて自分の庭や、緑に関心が増え、ある植物など六千円で売ってたものが二倍を超す一万四千円になっていた。しかも一ヶ月も経たないうちにのニュースが。

その顕著たるものは、観葉植物で販売者は、今まで以上仕入に苦労しているとの、テレビ各局の報道を耳にする機会がたしかに多くなってきました。

そんなことを鑑みて、「みみず通信」の再刊のはこびとなりました。

このデジタル化時代にあつて、何んでアナログきわまりない、新聞で？の想いは有りましたが、案外再刊の声も多く、庭仕事の愉しみをとも出来る。コミュニケーション広場としての復活も、望外の嬉びです。

これからも紙面を通じての提案、提言では有りますが、発刊のとき述べた通り、その内容は「みみずの戯言」かも知れません。

でもこのコロナ禍で生じた、新たな疑問やご質問、はたまた苦言などこの「みみず通信」を通じての遣り取りこそが、再刊の意義と云うもの、「ご意見」「ご注目を心よりお待ちしております」上げて居ります。